

TOOL COMPARISON

ノーコードツール比較表

Bubble・FlutterFlow・Adalo・Glide・Click主要5ツール+AIビルダーの使い分け（料金は2026年7月公式サイト実査）

Scoop MVP Media | 合同会社Scoop

2. 主要ノーコードツール5選の徹底比較

2026年7月時点で主要な5ツールを、料金・無料プラン・データエクスポート・ストア公開を含む9軸で比較します。

ツール	適用 領域	月額料金 (年払い)	月額料金 (月払い)	無料プラン	データエクスポート	ストア公開	学習 コスト	日本語 対応
Bubble	Web アプリ全般	\$29～ \$349 (Webプラン)	\$32～ \$399	○	○ (データはCSV出力可。ソースコード出力は不可)	○ (別建てのモバイル対応プランで対応)	中～高	一部
FlutterFlow	モバイルアプリ	月払いから約25%割引	\$39～ \$150 (シート単位課金)	○ (2プロジェクト、コードDL不可)	◎ (Flutterソースコードのダウンロード可・Basic以上)	◎ (Basic以上でワンクリックデプロイ)	中	一部
Adalo	シンプルアプリ	\$36～ \$160	\$45～ \$200	○ (500レコード、公開不可)	○ (データはCSV出力可)	◎ (Starter以上でApp Store/Google Play公開)	低	一部
Glide	業務ツール	\$19～ \$199	\$25～ \$249	○ (Glide Tablesのみ、25,000行まで)	○ (CSV/スプレッドシート連携)	× (PWAのみ、ネイティブストア公開不可)	低	一部
Click	国内発、簡易アプリ	¥4,400～ ¥19,600	¥4,980～ ¥21,780	○ (2アプリ、10レコード/アプリ)	公式記載なし (要問い合わせ)	○ (iOS/Androidアプリ対応)	低	◎

※2026年7月時点・各社公式サイトより（[Bubble](#) / [FlutterFlow](#) / [Adalo](#) / [Glide](#) / [Click](#)）。上位のEnterpriseプランは各社とも個別見積もりです。為替換算は1ドル=150円の参考値。

主要ノーコードツール5選 徹底比較

2026年7月時点・各社公式料金

ツール	適用領域	月額（年払い）	無料プラン	データ/コード出力	ストア公開	学習コスト
 Bubble	Webアプリ全般	\$29～349	○	データCSV可 / コード出力不可	○（モバイルは別プラン）	中～高
 FlutterFlow	モバイルアプリ	\$39～150（シート課金）	○	◎ Flutterコード出力可	◎（Basic以上）	中
 Adalo	シンプルアプリ	\$36～160	○	データCSV可	◎（Starter以上）	低
 Glide	業務ツール	\$19～199	○	CSV / シート連携	×（PWAのみ）	低
 Click	国内発・簡易	¥4,400～19,600	○	公式記載なし	○	低

※2026年7月時点・各社公式サイトより。Bubbleは別途Workload Units（処理量）課金あり。月払いは各社1～3割高。1ドル=150円換算の参考値。

scoop.llc/mvp-media

2-1. Bubble：Webアプリの決定版

- 世界最大級のユーザー数を持つノーコードプラットフォーム
- 複雑なロジック、API連携、条件分岐が実装可能
- スケーラビリティが高く、資金調達済みスタートアップの本番環境でも採用例多数
- 料金はWebプランで**年払い\$29～\$349/月、月払い\$32～\$399/月**（Starter/Growth/Team。2026年7月時点・[公式料金ページ](#)）。2025年以降はネイティブモバイルアプリ向けプランも別建てで提供
- ただし学習コストが高く、本格活用には1～3ヶ月の習熟が必要

Workload Units（WU）について: Bubbleの料金はプラン月額に加えて「Workload Units」という従量指標で管理されます。WUは、データベース検索・ワークフロー実行・API呼び出しなど、Bubbleがアプリを動かすために行う処理量の単位です。各プランに月間のWU枠が含まれ（例: Starter 175K/月、Growth 250K/月、Team 500K/月）、超過分は追加課金または上位プラン移行が必要になります。**ユーザー数や処理量が増えるほど月額が伸びる**構造のため、スケール後のコスト試算が選定時の重要ポイントです。

2-2. FlutterFlow：iOS/Android両対応の有力候補

- Google Flutter基盤で作るモバイルネイティブアプリ
- 料金は**シート（利用者）単位**の課金制で、月払い**Basic \$39/Growth \$80/Business \$150**（いずれも1シート目。2シート目以降は割引あり。年払いで約25%割引。2026年7月時点・[公式料金ページ](#)）
- Flutterソースコードをダウンロードできる**ため、後からエンジニアが引き継ぎやすい（ベンダーロックインが相対的に弱い）
- Custom CodeでネイティブAPIも呼び出し可能

- モバイルMVPなら第一候補

2-3. Adalo : シンプル・簡易向け

- ドラッグ&ドロップでモバイル/Webアプリ構築
- 料金は**年払い\$36~\$160/月、月払い\$45~\$200/月**（Starter/Professional/Team。2026年7月時点・[公式料金ページ](#)）。従量課金がなく、月額が読みやすい
- Starterプラン以上でApp Store/Google Play公開に対応
- 学習コスト最小クラスで、非エンジニアでも1週間程度で習得可能
- ただし複雑なロジックには限界

2-4. Glide : 業務ツール・社内アプリ向け

- かつては「Google Sheets前提」のツールでしたが、現在は**独自データベースのGlide Tablesが標準**。Google Sheets・Excel・CSV・Airtableとの連携に加え、上位プランではSQL Server・BigQuery等の**SQLデータソース接続**にも対応しています（2026年7月時点・[公式料金ページ](#)）
- 料金は**年払い\$19~\$199/月、月払い\$25~\$249/月**（Explorer/Maker/Business）
- 社内DX、簡易業務ツールなら最速クラス
- 公開形態はPWAのみで、App Store/Google Playへのネイティブ公開はできない点に注意

2-5. Click : 国内発ノーコード

- 日本語UI・日本語サポートで、国内の非エンジニアに最も優しい選択肢
 - 料金は**年払い¥4,400~¥19,600/月、月払い¥4,980~¥21,780/月**（Standard/Pro。2026年7月時点・[公式料金ページ](#)）
 - PWA・iOS/Androidアプリ・プッシュ通知に対応
 - 機能はシンプルなアプリ向けに限定的
-

3. AIビルダーとノーコードの棲み分け

2026年のツール選定では、従来型ノーコードに加えて**AIビルダー（AIアプリビルダー）**が有力な選択肢に加わりました。自然言語で指示するとAIがコードを生成してアプリを組み立てるツール群で、代表格は次の3つです（いずれも2026年7月時点で提供中）。

- **v0 (Vercel)** : UI・フロントエンド生成に強い。プロ品質の画面をチャットで生成でき、生成物はReact/Next.jsコードとして扱える
- **Bolt.new (StackBlitz)** : ブラウザ内でフルスタックアプリを生成・実行できる。セットアップ不要でアイデアを即座に形にできる
- **Lovable**: チャット反復での作り込みに強く、Supabase（データベース）統合が容易。非エンジニアの利用者が多い

ノーコードとAIビルダー、どちらを選ぶべきか。判断基準は次の3点です。

1. **成果物をコード資産にしたいか**: AIビルダーの成果物は「コード」なので、PMF後にエンジニアチームへそのまま引き継げます。一方Bubble等の成果物はプラットフォーム内に留まります（FlutterFlowは例外的にコード出力可）。将来スクラッチ開発へ育てる前提なら、AIビルダーやFlutterFlowが有利です
2. **運用・修正を誰がするか**: ノーコードは非エンジニアがGUIで安全に修正できます。AIビルダーは生成コードの品質確認・修正にエンジニアの目があるほうが安心です。非エンジニアだけで運用し続けるならノーコードが現実的です
3. **画面数と業務ロジックの複雑さ**: 会員管理・予約・課金など「定番機能の組み合わせ」ならノーコードのテンプレート資産が速く、独自性の高いUIやロジックが核ならAIビルダーの柔軟性が活きます

AIビルダーとノーコードの棲み分け

3つの判断基準で使い分ける

ノーコード (Bubble等)

非エンジニア中心のチームに

- ✓ GUIで安全に修正・運用できる
- ✓ 会員管理・予約・課金など定番機能はテンプレ資産で最速
- ✓ 成果物はプラットフォーム内（FlutterFlowは例外的にコード出力可）

VS

AIビルダー (v0 / Bolt / Lovable)

コード資産にしたいチームに

- ✓ 成果物がコード=PMF後にエンジニアへそのまま引き継げる
- ✓ 独自性の高いUI・ロジックに柔軟
- ✓ 生成コードの品質確認はエンジニアの目があると安心

判断基準① 成果物

コード資産にしたい → AIビルダー / FlutterFlow

判断基準② 運用者

非エンジニアだけで回す → ノーコード

判断基準③ 機能の質

定番機能の組合せ → ノーコード、独自UIが核 → AIビルダー

scoop.llc/mvp-media

AIビルダー各ツールの詳細比較や、AIコーディング（Cursor/Claude Code等）を含めた開発手法の全体像はAIコーディング時代のMVP開発 で詳しく解説しています。

4. ノーコードMVPの適用領域マトリクス

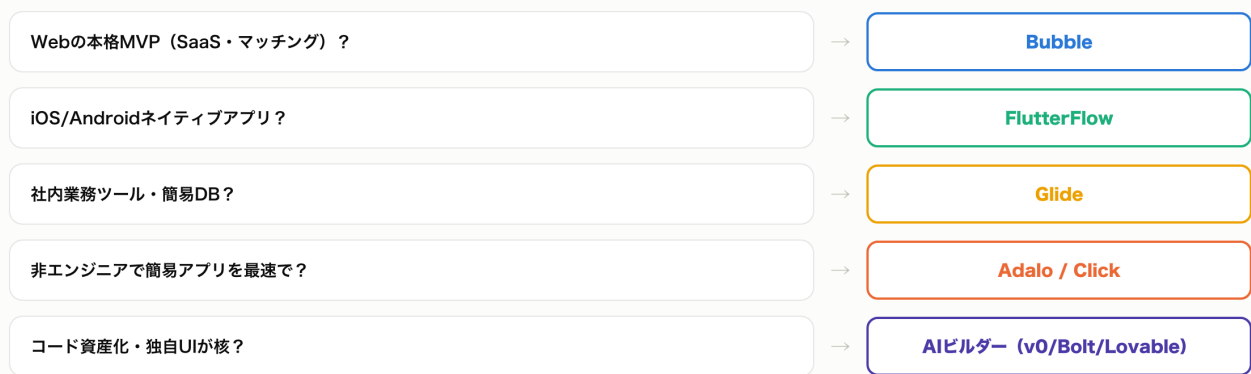
「どのツールがどの領域に向くか」を整理しました。

領域	Bubble	FlutterFlow	Adalo	Glide	Click
SaaS Webアプリ	◎	△	○	△	○
iOSアプリ	△	◎	○	△	△
Androidアプリ	△	◎	○	△	△
業務システム	○	△	△	◎	○
マッチング	◎	○	○	×	△
EC（本格）	△	△	×	×	×
SNS	○	○	○	×	△
予約システム	◎	○	○	○	○
社内DX	○	△	△	◎	○

判断ポイント：

- **Webの本格MVP** → Bubble一択
- **iOS/Androidのモバイル** → FlutterFlow
- **社内業務ツール** → Glide
- **簡易アプリを非エンジニアで** → Adalo or Click
- **コード資産化・独自UIが核** → AIビルダー（3章参照）

目的別ノーコードツール選定フローチャート



迷ったら「Webの本格MVPはBubble、モバイルはFlutterFlow」が基本線。選定の壁打ちは無料相談でも対応。

scoop.llc/mvp-media

☎ 「うちのプロダクトはどのツールが最適？」を15分で整理しませんか ツール選定は、機能要件・将来のスケール計画・チームのスキルで最適解が変わります。選定段階の壁打ちだけでも無料相談をご利用ください。 → [ノーコードMVPの無料相談を予約](#)

8. ノーコードMVPの限界とスクラッチ移行のタイミング

ノーコードは万能ではありません。**移行を検討すべき5つのサイン**を認識しておきましょう。

8-1. 従量課金コストの急増

- Bubbleの従量課金（WU）を含む月額が**\$1,000（約15万円）を超え始めたら**というのが、移行検討を始める**一つの目安**です（最適なラインはサービスの単価・粗利構造によって変わります）
- コスト面の損益分岐はサービス特性によって大きく変わるため、「WU単価×自社の想定処理量」で月額の伸び方を試算し、粗利と突き合わせて判断するのが確実です

8-2. プラットフォームリスクの顕在化

- 仕様変更で機能が動かなくなった
- 障害時に自社で対応できない

8-3. パフォーマンス限界

- 表示速度が3秒を超え始めた
- 同時接続数のボトルネック

8-4. 独自機能の実装限界

- カスタムコードでも実装できない機能が出てきた
- リアルタイム性・複雑計算の要件

8-5. スケール時の技術負債

- 「ノーコードで作ってしまったが、規模が大きくなって困っている」状態
- **早めの移行判断が結果的にコスト最小**になりやすい

スクラッチ移行の流れ

1. データベース設計（正規化されているか確認）
2. スクラッチ実装（Next.js/Rails/Laravel）
3. 段階的な機能移行（並行稼働）
4. 完全切替
5. ノーコード廃止

移行コストは、**スクラッチ開発の相場（MVP開発の費用相場参照）と同規模の投資**になると見ておくのが実務的です。**PMF達成後の投資**として計画に織り込んでおきましょう。

スクラッチ移行を検討する5つのサインと2つの選択肢



従量課金の急増

WU込み月額\$1,000超は検討目安の一つ（単価・粗利構造で変わる）



プラットフォームリスク

仕様変更で機能停止・障害時に自社対応できない



パフォーマンス限界

表示3秒超・同時接続のボトルネック



実装の限界

カスタムコードでも要件を満たせない



スケール時の技術負債

規模拡大で運用が回らなくなってきた

選択肢A: 段階的に全面移行

PMF達成後の投資としてスクラッチへ再構築（費用はスクラッチ開発の相場と同規模）

選択肢B: ハイブリッド共存

重い処理だけコード化しAPI連携で併用（米Dividend Financeの型）。全面移行だけが正解ではない

scoop.llc/mvp-media

 **公開事例 | Dividend Finance : 全面移行ではなくBubble+コードの「ハイブリッド化」を選択** 5章で紹介したDividend Financeは、事業がスケールしても**すべてをスクラッチに作り直したわけではありません**。成長にあわせて社内にソフトウェア開発チームを採用し、**ビジネスロジックの一部をコードで実装**したうえで、**Bubbleアプリ側をAPI連携で再設計してコード側のシステムと接続する構成**に進化させました（出典: [Airdev公式事例](#)）。「ノーコードの限界＝全面移行」とは限りません。画面や業務フローはノーコードのまま残し、負荷の高い処理や独自ロジックだけをコード化して**共存させる**選択肢もあります。移行を検討する際は、この段階的なハイブリッド化も含めて比較してください。

他社がMVPからどうスケールさせたかの実例は [MVP開発の成功事例集](#) も参考にしてください。

ツール選定に迷ったら

あなたの要件に最適なツール・開発体制を無料で診断します。

▶ **無料相談:** <https://scoop.llc/mvp-media/consultation/>

他の無料ダウンロード資料 (<https://scoop.llc/mvp-media/download/>) :

- MVP開発 5ステップワークシート
- MVP開発会社 17項目チェックリスト
- MVP開発 費用早見表
- ノーコードツール比較表
- MVP開発 成功事例集30選

© 2026 合同会社Scoop All Rights Reserved. | 本資料の無断転載・再配布はご遠慮ください。

出典・最新情報: <https://scoop.llc/mvp-media/>